

第 56 回 ESRI 経済政策フォーラム
－世界的な対外経済不均衡の趨勢と今後の展望－

1. 開催概要

日時：平成 31 年 2 月 5 日（火）9:30－12:30

会場：東海大学校友会館「望星の間」（霞が関ビル 35F）

一般参加者：60 名程度

プログラム：

報告 1

- ・中澤 信吾 在アメリカ合衆国日本国大使館参事官 ※Web 中継

報告 2

- ・野村 裕 経済社会総合研究所総括政策研究官

パネルディスカッション

主査

- ・祝迫 得夫 一橋大学経済研究所教授

パネリスト（50 音順）

- ・木村 福成 慶應義塾大学経済学部教授
- ・呉 軍華 株式会社日本総合研究所理事
- ・笹原 彰 University of Idaho, Assistant Professor of Economics
- ・松林 洋一 神戸大学大学院経済学研究科教授

2. 議事概要

冒頭、経済社会総合研究所の西崎所長が、米国第一主義を掲げて登場したトランプ政権が発足して 2 年が経過した現在、米中間の貿易摩擦のエスカレートをはじめとして、トランプ政権の通商政策が世界経済に及ぼす影響への懸念が広がっていることを踏まえて、今回の ESRI 経済政策フォーラムでは、米中間の貿易摩擦の問題を中心に、世界的な対外経済不均衡をテーマとして取り上げることとした趣旨説明があった。

次に、中澤在米日本国大使館経済担当参事官から、米国の通商政策の現状と見通しに関して、米中交渉や日米交渉等の直近の状況報告があった。引き続いて、野村経済社会総合研究所総括政策研究官から、国際通商摩擦が我が国企業に及ぼす影響について、実施中のアンケート調査の暫定集計に基づいた報告があった。



中澤 在アメリカ合衆国日本国大使館参事官

後半では、祝迫主査のコーディネートのもとにパネルディスカッションが行われた。



祝迫 一橋大学経済研究所教授

先ず、笹原 University of Idaho, Assistant Professor of Economics から、チャイナショックのアメリカでの影響について、David Autor らによる負の側面の研究（製造業雇用、婚姻率、イノベーション、政治的二極化等）、Robert Feenstra らによる正の側面の研究等、様々な研究が進展している米国内の状況について紹介と解説があった。



笹原 University of Idaho, Assistant Professor of Economics

次いで、木村慶応義塾大学経済学部教授から、現下の国際貿易秩序の危機をどう考えるかという問題意識の下、①貿易摩擦は短期では部分的妥協の可能性もあるが、本質的には長期化の危険性大、②WTOが機能不全にならないようできる限りの努力を傾けるべき、③最悪の事態として、マルチなき国際貿易体制への備えが必要、④米中2強時代における middle power の立ち位置、との論点について見解が示された。



木村 慶応義塾大学経済学部教授

呉日本総合研究所理事からは、米中関係の緊張と不均衡形成をどう考えるかという問題意識の下、①貿易戦争は米中全面戦争の前哨戦に過ぎないこと、②Free, Fare, Reciprocalを基準に関係を見直すべき、③米中競争は価値観の競争であり、

経済理念の競争、④もはや米中間の競争だけではないとの認識が重要、との論点について話が展開された。



呉 株式会社日本総合研究所理事

最後に、松林教授からは、最近のグローバル・インバランスの動向とその影響について、1980年代と2010年代の比較、2000年代と2010年代の比較を通じて、①世界的な対外不均衡の原因、影響、是正策を巡る議論の際には多面的なアングルとアプローチが不可欠、②丁寧な整理と説明によって国際協調的な政策を構想、実践していく必要、③1980年代、2000年代よりも複雑な様相を呈しており、複合的リスク（貿易摩擦、金融危機）となり得る、との論点について見解が示された。



松林 神戸大学大学院経済学研究科教授

フロアからは、①不均衡は是正されるものなのか、無理に是正されるべきでは

ないのか、②トランプ政権が続く理由、③中国の半導体製造の将来見通し、等の質問があり、パネリストとの間で意見交換が行われた。

最後に、祝迫主査から、米国内では共和党・民主党いずれからも自由貿易主義を支持する声は出てこなくなっており、米国を震源地とする国際通商摩擦は長期化する課題と認識すべきこと、本日は議論が及ばなかったが先端技術を巡る国際競争も重要な論点として忘れてはならないこと、日本の立ち位置は難しいが、世界で最も少子高齢化が進行する国として、中国、韓国、欧州や新興国の範となるような経済政策を行うことが、然るべき立ち位置を確保していくために大切であること、とのエンディング・リマークがあった。

以上